

「ひょうごアスリート応援団」登録リスト

R5.3.15現在

※ 本リストは随時、更新していく予定です。

プロ

	チーム名	競技	主な実績等
1	西宮ストークス	バスケットボール	2011年に兵庫県唯一のプロバスケットボールクラブとして誕生。2020-21シーズンにおいては、B2リーグ西地区優勝という好成績を収めた。また、兵庫県各地で学校訪問や小学生対象クリニックなどを行い、バスケットボールを通じて地域の子どもたちと交流を深めている。
2	兵庫県プロゴルフ会	ゴルフ	兵庫県を中心に活動するティーチングプロA級、ジュニア指導員等、総勢200名以上のプロゴルファーが所属し、独自の大会や、様々な大会の後援等を行っている。選手育成事業や各種チャリティー事業にも積極的に参加し、ジュニアゴルファー育成の構築を目指し、活動している。

チーム

	チーム名	競技	主な実績等
1	三菱電機 バドミントンチーム ダイヤモンドウイングス	バドミントン	1956年に創部され、伊丹地区を拠点に活動。1972年には全日本実業団大会で優勝するなど、歴史あるチーム。現在は競技とともに、バドミントンの普及と地域貢献を目的に、講習会や高校生等の練習参加受け入れを行っている。
2	神戸ファストジャイロ	ラグビー	2019年「一般社団法人神戸ファストジャイロ」を設立。最近では、元日本代表選手を専属コーチ、また、ワールドカップ帯同トレーナーを専属トレーナーとして招聘した。現在は競技とともに、兵庫県の小中学生、ラグビー未経験者を対象としたラグビー教室を実施している。
3	姫路イーグレッツ	バスケットボール	2013年チーム創設。2022～23シーズンよりWリーグへの参戦が決定。兵庫県からWリーグに所属する初のチームとなる。姫路市等を中心に活動しており、現在は競技とともに地元中学校へ出向き、合同練習やクリニックを行っている。
4	シオノグレインポー ストークス兵庫	ソフトボール	1949年創部され、尼崎市を拠点に活動。1968年の日本リーグ発足とともに参加し、1975年には、リーグ総合優勝。現在は日本女子ソフトボールリーグ1部所属。2022年春には、女子ソフトボール新リーグ「JD.LEAGUE」に参戦することが決定している。
5	東芝姫路	ソフトテニス	1958年に創部され、姫路市を拠点に活動。現在に至るまで、日本代表選手を多く輩出しており、2020年シーズンにおいては、日本リーグ2位という好成績を収めた。現在は競技とともに地域貢献活動として子どもたちにソフトテニス教室を行っている。
6	(株) 籠谷陸上部	陸上競技	2021年に(株)籠谷が創業100周年を迎え、陸上部を設立。棒高跳びの那須真由選手、短距離400メートルの稲岡真由選手、400メートルハードルの横田華恋選手の3名が所属する。(令和3年11月現在) また、子どもたちを対象とした陸上教室等を通して、普及活動にも力を入れている。

運動部

	チーム名	競技	主な実績等
1	神戸松蔭女子学院大学 なぎなた部	なぎなた	1983年に学内で強化指定クラブに認定され、全国の高校強豪校より優秀な選手が入部するようになり現在に至る。全日本学生なぎなた選手権大会の試合競技団体戦では過去12回の優勝を誇る。また個人の部でも5名の優勝者を輩出している。卒業後も指導者となり競技を続ける部員が多く、指導法も学んでいる。

「ひょうごアスリート応援団」登録リスト

R5.3.15現在

※ 本リストは随時、更新していく予定です。

アスリート

アスリート名	競技	主な実績等
1 江口 倫司	サッカー	大学在学中にプロサッカー選手としてデビュー。プロリーグのヴィッセル神戸やアビスパ福岡でFWとして活躍。引退後は、ジュニア世代のサッカー指導者として活動し、現在に至る。 Jリーグ通算：122試合出場23得点
2 大西 香	テニス	大学卒業後、ノアインドアステージ所属、ダンロップスポーツ契約プロとして海外・国内のツアーを回る。引退後は、ジュニア世代のコーチングを中心に活動し、現在に至る。 日本最高ランキング：シングルス27位 ダブルス20位
3 飛田 尚彦	ホッケー	大学院修了後、ベルギーホッケーリーグにて日本人初の海外プロ選手として活躍。現在、株式会社TOPTOPCOMPANY代表取締役を務め、様々な競技のアスリート・コーチ・チームを対象にコーチングを行う。 ホッケー元日本代表コーチ、ホッケー元日本代表選手
4 小林 祐梨子	陸上	須磨学園在学中から、数々の世界大会で活躍。2006年には、女子陸上1500mで日本新記録（当時）を樹立。その後も、輝かしい戦績を残し、2015年に陸上競技からの引退を表明。引退後は、スポーツコメンテータとしての活動を中心に、現在に至る。 2008年北京オリンピック陸上女子5000mに出場。
5 遠藤 小百合	カヌー	高校時代から競技を始め、数々の世界大会で活躍。また、大学卒業後は高校の教師となり、赴任した県立芦屋高校ではカヌー部を立ち上げ、顧問として指導を行った。 1996年アトランタ五輪、2000年シドニー五輪と2大会連続出場。 アトランタ五輪では、日本女子として初めて準決勝へ進出。
6 江藤 正博	サッカー フットサル	大学時代にサッカーと掛け持ちしながら、関西フットサルリーグ・カンカンボーイズでフットサルを始め、兵庫県選抜、日本代表(2002-2004)に選出。その後、数々の国内チームで経験を重ね、イタリアフットサルプロリーグへ移籍。 現在は、カンカンボーイズで選手兼任総監督として活躍。
7 廣瀬 芽	ソフトボール	2004年の日本代表選出以後、数々の世界大会で活躍。2008年、北京オリンピックでは、金メダルを獲得。また、日本リーグでの活躍も目覚ましく、ベストナイン（三塁手）3回、打点王1回と輝かしい成績を残す。2010年シーズンを最後に現役引退。引退後も、ソフトボール教室等で後進の育成に努めている。
8 中村 麻衣	アーティスティック スイミング	2009年の日本代表選出以後、数々の世界大会で活躍。2012年ロンドンオリンピックではシンクロ日本代表（当時）の主将としてチームを牽引し、5位入賞。続く2016年リオデジャネイロオリンピックではチームで銅メダルを獲得。2017年の世界水泳選手権を最後に現役を引退。引退後も、競技の普及活動やAS教室の講師を務め、現在に至る。
9 新澤 由貴	水球	日本代表として、数々の世界大会で活躍。2018年アジア競技大会では銅メダルを獲得。また、2021年東京オリンピックでは水球女子日本代表の主将としてチームを牽引した。2021年10月末をもって現役を引退。現役中から、母校である県立明石西高校等での講演活動や各地での競技の普及活動、水球教室等で後進の育成に努めている。
10 中野 瞳	陸上	兵庫県立長田高等学校在学中にU20&U18日本記録・高校記録（走幅跳）の6m44を樹立。この記録は、現在も残る。また、インターハイ、日本インカレ、全日本実業団対抗選手権（2015、2016と連覇）での優勝、第23回アジア選手権日本代表選出等、輝かしい成績を残す。現在は、一般社団法人 Jump Festivalの代表理事となり、陸上競技の普及に努めている。
11 網代 忠勝	剣道	全国トップレベルの選手として活躍。日本代表に選出、第16回世界剣道選手権大会での個人優勝など輝かしい経歴をもつ。また、後進の育成に努め、中学生対象の練習会等では、的確な指導で成果を上げている。また、参加者に対する接し方も気さくなものであり、指導者としても高い評価を受けている。
12 川越 愛	剣道	全国トップレベルの選手として活躍。日本代表に選出、第15回世界剣道選手権大会での個人3位入賞、敢闘賞獲得など輝かしい経歴をもつ。また、後進の育成に努め、中学生対象の練習会等では、的確な指導で成果を上げている。また、参加者に対する接し方も気さくなものであり、指導者としても高い評価を受けている。
13 古屋 由布子	スケート (ショートトラック)	ワールドカップ、世界選手権等、数多くの国際大会へ出場し、入賞する。2005-2006シーズンでは当時3000mで日本記録を樹立するなど、トップレベルで活躍。その後全日本ショートトラック強化スタッフとして、様々なトレーニング方法を取り入れながら選手のレベルアップを図る。兵庫県スケート連盟アンリシャルパンティエスケート講師。
14 安保 澄	バレーボール	2,000年からVリーグ女子イトーヨーカドー、武富士、久光製薬スプリングスのアシスタントコーチを歴任。女子日本代表アシスタントコーチ時代は、2010年世界選手権銅メダル、2012年ロンドン五輪銅メダル獲得に貢献。また、女子日本代表年代別代表監督など多数の指導実績をもつ。2019年5月よりヴィクトリーナ姫路ゼネラルマネージャーに就任。
15 中垣内 祐一	バレーボール	バレーボール元日本代表。日本リーグ、Vリーグを経て、2004年現役引退。その後、堺ブレイザーズ監督に就任。2016年から男子日本代表の監督に就任し、東京オリンピックでは29年ぶりに8強に導いた。2001年度より兵庫県バレーボール協会テクニカルアドバイザーとして、ジュニア層の育成ならびに兵庫県成年男子チームの戦術指導にも尽力している。
16 新馬場 一世	空手道	兵庫県尼崎市出身。浪花高校2年、3年時にはインターハイを連覇。京都産業大学2年生時、ナショナルチームのメンバーに選出される。2012年の「岐阜国体」では優勝。国際大会にも積極的に挑戦し、輝かしい成績を収める。2020年全日本強化選手（シニア男子個人形）、2020年世界ランキング3位。

17	篠藤 淳	陸上	山陽特殊製鋼陸上競技部コーチ。2006年、2014年の日本選手権3000mSC優勝を果たす。2014年仁川アジア競技大会日本代表として、4位入賞。2008年第84回箱根駅伝では、中央学院大学にて復路のエース9区で区間新記録を打ちたて、大会MVPを獲得すると共にチームを初めてのベスト3に導くなど、輝かしい実績をもつ。現在、陸上教室を開催するなど、スポーツの振興・普及にも貢献している。
18	Jeon Jae Mok (ジョン ジュモク)	スケート (ショートトラック)	ショートトラック強豪国の韓国ナショナルチームの指導者として、各冬季オリンピックに向けて、各国から招聘される実績を持つ。国体をはじめとした兵庫県選手を永年にわたり指導し、兵庫県ショートトラックの競技力向上に尽力している。国際大会でのメダル獲得や、特別国民体育大会冬季大会成年女子リレー1位などの国体入賞などに大きく貢献している。